

取得までの経緯など話す

旧日向邸保存会が月例講演

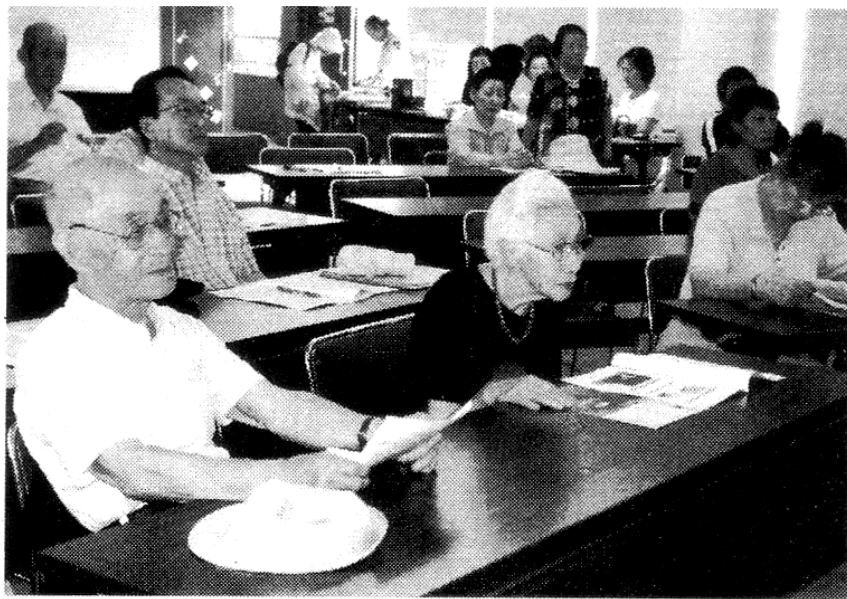
旧日向邸別邸保存会(中井正勝会長)の月例講演会「重要文化財・旧日向邸を知ろう!」がこのほど、起雲閣ギャラリーで開講した。初回講師は中井会長が務め、「旧日向邸 熱海市取得のミステリー」と題し、講演した。

講演会には、同会員など約30人が集まった。中井会長は、はじめに「ひとりでも多くの人に旧日向邸を知ってもらえるように、知りうる限り、伝えていこうと思います」とあいさつした。中井会長は講演で、東京都内在住の篤志家女性が「貴重な文化財を残したい」と市に購入資金を寄付、市が取得するに至った経緯を説明した。当時の厳しい市財政などから取得を懸念する声が多勢を占めていたことや、取得に向けて、建築関係者の活発な

陳情があつたことなど話した。

同市春日町にある旧日向邸は昭和11年に、実業家の故・日向利兵衛氏の別荘の離れとして建てられた。民間企業の保養所として利用され、平成16年11月に熱海市が取得し、翌秋から一般公開が始まった。ドイツの建築家ブルーノ・タウトが設計した地下室は、国の重要文化財に指定されている。

次回講演は8月30日(日)午後1時から3時まで、



旧日向邸を市が取得するまでの経緯を聞いた